

# 弓道ながの

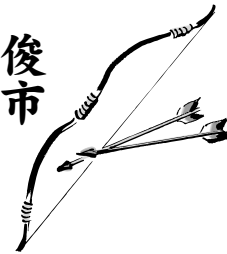
第33号

発行：長野県弓道連盟  
会長 山川茂樹  
〒396-0025  
伊那市荒井3919-3  
TEL.0265(72)3060  
編集：県弓連広報部  
印刷：榊宮澤印刷

## 巻頭言

### 稽古と修練

長野県弓道連盟副会長 土川 俊市



弓士の皆さんは日々どんな気持ちで射場に立たれておられるのでしょうか？

私も年度の終わりに

わりの一年を振り返り反省してきましたが、今回は白紙に戻り再出発のつもりで過去を振り返ってみました。

日々の道場通いを「稽古に行く」と思い、日記にも「稽古の結果云々」と書いてきました。

また機会があつて他地区の道場内の光景を見て皆さんが一生懸命稽古されている姿に感心しています。

数稽古の教歌にある、「射よや射よ射するより上の師はあらし、ならわぬ

ことをわれとこそ知れ」と稽古されておられるのでしょうか？

「稽古」とは、学んだことを練習すること、習うこととあります。

一生懸命稽古されている姿は立派で素晴らしいこととあります。

ところで「修練」とは精神や技能を磨くこと、鍛えることとあります。

私は稽古の延長が修練と思つて道場に立つてきました。

言葉やその言葉の意味に拘るつもりはありませんが、一般的にどんな事に意識と云うか心掛けてその場に立つていられるかが大切なのです。

道場内にいる全ての時間をそのことに費やすことがない



筆者近影 (於 松本市弓道場)

にしても、どのように気持ちコントロールされて手応えなり効果を実感されていられるかです。思いはあつてもその場の空気にながされることが多いのではないだろうか？

一人稽古は下手になると云われまです。確かに誰も何も云つてくれない訳です。

日頃何かを得たいと思ひコツコツと稽古に励む人の隣で的中だけを楽しんでる人、例会から例会だけの出席でポンポンの中させて悠々と引き上げる人等、今までの自分は何してきたのかと云われそうですが、人は感情によって支配されると云われ気持ちの持ち方が大切であり、また気持ちの切り替えも必要とあります。

正しいと信じていたことが間違っていることも数多くありますが、人から何を云われようと信念を持つて基本に返り忠実に従い正しいと信じたことの

反復錬磨を重ねていつていただきたい。人生に近道は無いと云われます。

稽古と修練によつて「射品」「射格」を高める、故村上久範士の云う「修練に欠かせない三つの要素」を反芻して自分なりの修練の形を確立してほしいと思つていきます。

稽古に問題(課題)意識を持つて必要性は理解されたことと思ひますので、是非実践して頂きたい。

練習会・研修会や日々の稽古にただその場の空気に入りたいと云う程度の思いで参加されたのでは手応えは得られないと思ひます。

先に開いた「若者のための勉強会」は一定の年齢層であつたこともあつてそれぞれが課題意識を持つており講師の一言ひとことを聞き漏らすまいと、行動もきびきびと充実した内容のもので明るい兆しを得たものであります。

これから開催されるこの種の催しがより多くの参加者と協力で密度の濃いものであるために課題意識を持つて参加されることを期待いたします。

これからの力は弓界発展の「核」となり地域から県弓界発展へとつながる源であると確信いたします。

弓士の方々の一層のご発展をお祈りいたします。

評議員会報告

二十二年度・県弓連事業計画が確定!

事業内容の変更や新規事業も盛り込まれる

去る一月二十四日、塩尻市の中信会館において県弓連評議委員会が開催されました。

会議の冒頭、山川会長の先導で昨年故人となられた会員に黙祷を捧げた後、会長挨拶に引き続き議長に富永義美・上伊那支部長を選出して議事に入り、前年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認、続いて各部から今年度事業計画案と予算案が提案され、慎重審議の末、満場一致で承認されました。

今年度事業のうち、従来と大きく変更となった事業と新規事業について周知徹底のため概略を紹介します。

「ねんりんピック」は一本化

昨年九月に長野県長寿社会開発センター主催の『信州ねんりんピック交流大会』が始まり、これまでの県弓連主催の「ねんりんピック県大会」と重なるため、来年以降、県連主催の大会を開発センター主催の大会に一本化し、競技部が担当することになりました。

これにより、今年の全国大会(石川県)の選手選考は、五月二十二日に松本で行われる県弓連主催の「ねんりんピック県大会」で決定し、来年の全国大会の選手選考は本年九月二十五日に東御市で行われる開発センター主催の『信州ねんりんピック交流大会』で決定することになりました。以後、一年前に翌年の全国大会選手選考が行われることとなります。



1位 土川 俊市、2位 鈴木 清重、3位 平澤 孝一の各選手

第一回信州ねんりんピック大会入賞者

「ヤングセミナー」を新設

前年度、若手会員の育成を目的として試行した「若者のための勉強会」が内容も充実し、参加者の好評を得たことから、本年度から指導部の正式事業に加えられました。

事業名は『ヤングセミナー』と命名され、今年度は、八月二十八・二十九日の土日に一泊二日の日程で県営飯田弓道場を会場に実施することになりました。昨年より年齢制限を緩和して希望者を募集することになりましたので、要項に従って応募して下さい。

以上、今年度の事業変更・新規事業



について紹介しました。

実技指導に真剣に取り組む受講生たち

審査部

平成二十一年度を振り返って

審査部長 降旗 昭雄



平成二十一年度の弓道審査会は計画通り実施することが出来ました。

ここに審査員の先生方、支部長および運営に当たられた会員の皆さん、そして受審された弓士の方々に厚くお礼申し上げます。

県内審査の受審者総数は昨年度より若干減少しましたが、二五六〇名の弓士が受審されております。ただ残念なことに部活としては活発に活動している高校でも審査を受けない高校がありました。いろいろ事情はあるとは思いますが、折角三年間弓道の練習に励んできたのに「段位なし」で卒業してしまうのは何か寂しいような気がします。審査部としても何らかのアップロー

手をしていかなければと感じました。

昨年度の事業で大きく変わったものとして「参四段審査会」の新設がありました。

一昨年までは参四段受審者は各地区の「四段以下審査会」に無指定受審者からと一緒に審査を受けていました。それを参四段受審者だけを対象とした審査会としたのです。いろいろ危惧することはありましたが、受審者からは好評の声をいただきました。

その一番は受審者が緊張感のある審査で臨めたということです。以前ですと参四段はどうしても午後の時間帯となり、なかなか緊張感が保てない状態であったのと、式段以下の受審者は大半が高校生であり、参四段受審者は大学生、社会人です。一緒に審査会ではそれぞれに少し温度差があったのでしよう。確かに開会式の雰囲気は全然違っているように私は感じました。

初年度となる平成二十一年での受審者数は東北信地区(上田会場)八八名、中南信地区(松本会場)一〇三名、合計一九一名の参加を得ました。予定していた二〇〇名を若干下回りましたが初めてとしてはまずまずと思っています。ちなみに合格率はほぼ参段三五%、四段二〇%でした。

審査員の服装も本年度も引続き和服着用で審査に当たります。それとともに四段受審者は本年より「和服着用のこと」と改訂しました。

参四段受審者ともなれば射技ばかりでなく、体配にも修練して欲しいと感じました。それには日頃の修練はもちろんです。講習会に参加し指導を受けるのが肝要と思います。受講歴の空白が目立つようなことがないようにしていただきたいと思っています。

全弓連では「会員管理システム」の改正を進めていきましたが、平成二十二年四月から新システムが稼働することになりました。それに従いID番号が変わります。

地連コード(長野県は二四)がなくなり全国統一の番号となりますが、基本的には現ID番号の下六桁はそのまま使用されます。平成二十二年度事業計画書の会員名簿も新IDが記載されていますのでご利用願います。

最後に審査部としては「基本に忠実な正しい弓道を求めて、日頃修練に励んだ成果を、審査会の機会にその力を発揮して、また新たな目標を目指して稽古に励むこと」を願っています。

## 22年度 県弓連審査日程

(開始時間 9:00)

回数	地区別	月 日	会 場	主管本部	
1	北信式段以下	3月28日	長野運動公園弓道場	長野支部	奥山 誠司
2	中信式段以下	4月18日	松本市弓道場	松本支部	杉田 博
3	南信式段以下	4月18日	県営飯田弓道場	飯伊支部	村松 康尾
4	南信式段以下	4月18日	駒ヶ根市営弓道場	上伊那支部	富永 義美
5	中南信参四段	5月16日	県営飯田弓道場	県弓連	審査部長
6	東信式段以下	5月23日	小諸市武道館弓道場	小諸支部	小坂末次郎
7	中信式段以下	10月 3日	松本市弓道場	松本支部	杉田 博
8	北信式段以下	10月24日	長野運動公園弓道場	長野支部	奥山 誠司
9	北信式段以下	10月24日	中野市営弓道場	中高支部	土屋 義雄
10	南信式段以下	10月24日	岡谷市営弓道場	諏訪支部	宮坂 博之
11	東信式段以下	10月24日	東御市営弓道場	上小支部	倉島 康司
12	南信式段以下	11月14日	県営飯田弓道場	飯伊支部	村松 康尾
13	東北信参四段	11月14日	長野運動公園弓道場	県弓連	審査部長

## 《強化部 科学委員会 研究報告①》

# 『矢の飛び方』の解明

強化部 科学委員会 内山 喜照



強化部科学委員会では、国体選手のご協力の下で弓具や人体についての科学的分析を行っています。今回は紙面をお借りして二回にわたり、昨年度、一昨年度の研究成果をご紹介します。

一昨年は離れの後の矢の飛び方について、ハイスピードカメラを用いてその様子を観察しました。その結果、矢は発射直後に大きく水平方向にになり、復元としなりを繰り返しながら飛行していくことがわかりました。

(1) 会の状態では、矢は的に向けて静止しており、離れの瞬間、すなわち弾溝から弦が外れた時から弦の動きに連動して矢は的に向かって動き始めます。発射時に頬づけにより矢は顔にも接しています。静止状態からいきなり最高速度になるわけではなく、弦の復元にしたがって最初はゆっくりと、その後徐々に加速を始めています。



(1) 会の状態の矢

(2) 弦が顔の前を通過するとき、角見の働きによって弦は顔から若干離れた位置を通過します。このとき、矢の筈はまだ弦にはまっていますので、筈も顔から若干離れた位置を通過します。つまり、矢の羽や筈は頬づけで顔に触れていた口割の矢の位置を通過するのではなく、もっと体の外側を通過していきます。このことは、射手が離れの際に弦で耳や頬を打たないことからわかります。

かります。しかしながらこの瞬間に矢の先は急激に後ろを向かないため、矢が体に向けて内側に曲がることになりません。ハイスピードカメラの映像によれば、離れの直後約0.1秒後に全ての射手で最初に内側に矢がしなる様子が観察されました。この矢の曲がり方は、弓の強さ、矢の太さや材質、角見の強さによって異なることがわかりました。



(2) 離れの瞬間の矢のしなり

(3) 弓がほぼ復元し弦が本来の弓肥(きゆうは)の位置に達したとき、離れのあと0.2秒から0.3秒の状態では矢の曲がりも復元してほぼまっすぐに戻ります。このすぐ後に矢の筈が

弦からはずれ、矢は空間に放たれて自由な状態で飛行を開始します。



(3) 直後の矢の復元

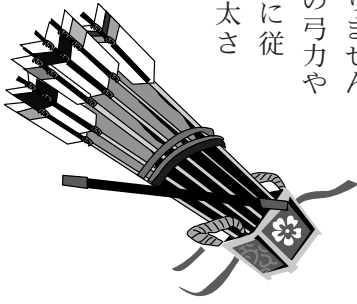
(4) 筈が弦からはずれ、まっすぐに戻った矢がそのまま飛行するのではなく、先ほどの曲げられた力の反動で今度は体の外側に向けて湾曲します。この後は空中の自由運動なので、矢は水平方向に湾曲を繰り返しながら振動しつつ飛んでいきます。空中を飛ぶうちに振動は小さくなっていきます。

この湾曲の曲がり具合は矢のやわらかさ、すなわち矢の材質や太さに大きく依存しているようです。特に細くて軽い遠矢の発射時に、矢が大きく曲がる様子が観察できます。



(4) 飛行中の矢の湾曲運動

矢のしなりはほぼすべての射手で観察され、その一因として和弓特有の角見の働きがあることがわかりました。矢飛びや的を考えたとき、あまりにこのしなりが大きくなることはよいことではありませんので、自らの弓力や角見の強さに従った重さや太さの矢を用いることが重要だと考えられます。



## 講習会報告 指導力向上指導者講習会に参加して

飯山支部 教士七段 平野 英孝

二月六・七日の二日間、全弓連中央道場・至誠館道場で平成二十一年度指導力向上指導者講習会が開催され、全国から六十五名が参加。長野県からは外園先生と私が受講させていただきました。

六日朝三時起床、前日には予想もしなかった膝を越す降雪があり、一時間の除雪。飯山線が二十分遅れ、長野駅では新幹線が待っていてくれました。家から二時間半の東京では太陽がまぶしく感じました。

### 一日目

石川武夫主任講師の矢渡し、窪田史郎、佐久間剛、飯島正大講師による一つの射礼。その後受講者の一手行射で午前の部終了。

午後は鈴木会長の講話から、開口一番、「介添えが悪いと射手が引き立たない。皆さんは射手の機会は多いが、介添えをする機会が少ない。慣れるためにも自分から申し出てやるべき。」講師の「一つのダメ!」「皆さんの一手行射も寒さのためかダメ!」との厳しい講評がありました。

講義では「形、的中に捕らわれてはダメ。」「弓も弾も道具が大切、弦音のしない弓はダメ。」「今日のような研修会で弓の仲間が増え、欠点を指摘してくれる真の仲間をつくって欲しい。」などと、ご自身の豊富な経験談を笑顔で話されました。その後一つの射礼の実習。射技指導で一日目終了。

### 二日目

川村光良、鳥羽久之、佐竹万里子講師による一つの射礼。受講者による射礼の実習。相互研修。射技指導。

講評で鈴木会長は講師の一つの射礼に「川村範士まずまず、残心(身)に余韻がない。鳥羽範士会充実せず、安定感なし。佐竹範士いつもの離れでなく、離している」受講者へは「最初の一手行射で、射技研修の射が出れば良いと思う。」「何事にも集中することが大切。」「気概、強い意志を持つ。」「特に『堂々と失敗する勇氣を持って!』」

山下三ヶ十副会長は「講師の言葉に違いはあるが、行き着くところは

同じであるので、信頼して結果を出して欲しい。」

石川主任講師「体配は教本通り覚えて欲しい。皆さんが範を示せるように。」このように経験豊富な講師の先生のお言葉は、心に残るものばかりでした。

「講師の指導は、最低二か月は続けて欲しい」の山下副会長のお言葉を心に留め、このような素晴らしい講習を受講させていただいたことに感謝して、報告いたします。



緊張感漂う射技研修風景



# 「弓と私」

—好きな道を共に進みたい—

松本支部 教士八段 竹内 律子

弓を手にして七十余年、楽しかったことのほうが脳裏に浮んできます。苦しかったことと云えば国体選手となり大会間際になるとスランプに。幸にも監督、チームの方に守られ励まされ入賞はできたと云う繰り返しでした。今日迄続けられたのは弓が好きで私にとっては人生の羅針盤と感謝しています。私は挫折しそうになった時、故巖先生、大久保先生他多くの弓友に励まされ勇気を貰いました。弓は男女をとわず公正におつきあい頂け、本当に素晴らしいと思います。

仕事と子育ての合間に寸暇を惜しみ道場へ足を運び初心者教室を持たせて頂きました。女性と高齢者の方々に、人生経験豊富な社会人との触れ合いなので緊張しました。怪我の無いよう、弓が好きになり長く続けて頂けるよう、真剣に係わった二十二年間、其の方達のなかから教士、錬士となられた方々が現在後輩の育成指導に当たっています。私もゆつくりと弓の時間をと思つた時、七十も過ぎ膝を痛め、意のままならず過ぎて行くばかり。

昨年の春、杉田先生より八段推薦の話を戴きました。今の私には望めない

体なので一旦は辞退しましたが、もし私に何か使命があるならばと勇気を出し決断、県弓連会長山川先生、副会長土川先生始め県弓連の役員の皆様の御力添えをいただき、五月一日付けをもって八段を拝受することができました。謹んで御礼申し上げます。

是から私に何が出来るだろうかと思つた時、恩返しのできない現在に苦しみます。もう一度襟を正し微力ながら後輩と何でも話しあえる友達となり、好きな道を共に進みたいと思います。今後共御指導の程お願い申し上げます。



佐竹万里子先生を囲んで (前列左から三人目が筆者)

# 弓仲間紹介

## 「弓魂」

上伊那支部 笹岡 達也

私たち『弓魂』は、赤穂や伊那弥生、伊那西など高校時代の弓道部OB・OGを中心とした、平均年齢二十四〜二十五歳のグループです。現在、二十人ほどで活動しており、主に駒ヶ根道場で外

蘭先生や高伸部長をはじめ大勢の方々に支えられて練習に励んでいます。これまで活動を続けてきた中で感じたことは、学生時代部活で弓道をやっていた、また弓が引きたいと思う人はかなりいるということです。しかし、現状は、同世代が少ない中に一人で飛び込んでいくのはなかなか難しく、仮に飛び込んだとしても楽しめなかったということが少なく



恩師・仲間と (前列右端が筆者)

私たち『弓魂』の一つの目標となっています。また、弓道以外の活動もしており、レク係が企画する温泉旅行やスノーボ旅行、カラオケやボーリング、求婚活動など、様々なことを計画して日々楽しんでいきます。

県内各地に遠征しているの、顔を合わせることもあると思います。その際には是非気軽に声をかけて下さい。また、随時メンバーの募集を行つていますので、もし興味のある方は連絡をいただければと思います。

ないようでした。

私自身、今の仲間がいなければ、弓をまた始めようとは思わなかったし、ここまで楽しむことはできなかったと思います。これまでの経験を通して、そうした人たちが少しでも多く、もう一度弓道をしてみようと思える環境を作っていくことが、私



# 「八段？」

—人は消去法でしか学べない—

松本支部 教士八段 杉田 博

一昨年東京定期中央審査の一次でまたま皆中した。なんとなく半日以上発表を待つ。一次通過五人の中に自分の番号を見つけてビックリ。夕闇の二次審査の四人一つの。甲矢を抜く。

と言うことで昨年は京都に始まり、仙台、福岡と二次審査に挑戦。暑いさなかの福岡では入場で間違えて後ろの二人に迷惑をかけてしまった。間違いはずが気がつき、それであがつたとは思えなかったが、メタメタの弓を引いてしまった。

その後中央研修会に参加させていた、だき大変勉強にはなったが、自分の弓に大きな『？』が付く。そんな訳で東京の審査が終わったならばらく受審するのをやめようかとも思っていた。

だから一次免除最後の東京審査もあまり緊張はなかった(と思う)。ただ福岡と同じメンバーだったから同じ間違っただけはしないような気を使った……。発表の後大勢の人にお祝いの言葉を頂きましたが、なんとなく居心地が悪く、それがだんだん時間の経過に従っ



松本市弓道場で稽古する筆者

てプレッシャーに変わってしまいました。『？』は何時になったら解消できるのか、あるいは一生『？』のまま終わるか解りませんが、悩んでいても仕方ない、今まで通り先生方、弓友のアドバイスを頂きながらとにかくやるっきゃない、と腹を括って精進するつもりでいます。しばらく前に目にした『人は消去法でしか学べない』という

言葉を励みにして。

最後になりましたが、山川会長はじめ先生方、弓友の皆様には厚くお礼申し上げますとともに、微力ながら長野県弓道連盟の発展のために努力するつもりですので、今後とも宜しくご指導のほどお願い申し上げます。

## 私と弓道

小諸支部 四段 栗林 正直

『定年退職を機にスタート。自分と向き合う時間』これは、恥ずかしながら地域新聞の一月号に紹介された私にまつわる記事の見出しです。

私は大学時代弓道部で活動しましたが、多忙な教職時代は道具に触れることさえなく忘れ果てていました。退職後、勧められて歴史も由緒もある小諸弓道会に入部したのです。懐古射院は、平成二十一年十一月に竣工したばかり。古城小諸城内の苔むした石垣と樺や紅葉の樹木に囲まれて心洗われる雰囲気を持つ素晴らしい弓道場です。四季の移ろいの中で、仕事帰りの夜間や、休日に懐古射院に寄り身支度を調べて、お仲間と共に弓を引けるのを至福の時と感じています。

小諸ゆかりの文豪島崎藤村も「千曲川のスケッチ」の「古城の初夏」で弓を引く義塾の職員姿を巧みに表現している。皆様も一読を。道場には、ずらりと会員の名札が並んでいます。(今年の新入会員は十六名)



懐古射院での的に向う筆者

笹澤会長さん、小坂支部長さんをはじめ高段者の先輩方・射歴豊富な先達から、弓技向上の的確なご指導や課題のご指摘を頂きながら、若い会員の方とも励ましあつて弓道の理念達成と健康作りに燃える日々となっています。そして、目標を持って工夫・研究・努力・練習をし、修養を重ねることで自己を高めていこうと思っています。弓道は自分との対峙の世界で、自らを律する場でもあるので人生の再スタートの時期に弓道に再会できたことは大変な幸運と喜んでいきます。

これからも、お仲間と「射は人生」とか、「敵は我にあり」「上手になられましたね」などと、嘯き交わす雰囲気の中で、認め合い高め合いながら、弓道の魅力を広げられるよう、修練を重ねていきます。

投稿

「あの人の一言」

長野支部 錬士五段 大山 孝吉



その道を究めた人や、一流アスリートの言葉は、非常に含蓄に富んでいます。我々弓道人にとっても非常に参考になるかと思えますので、一部をまとめて見ました。

○「プロになるのが目標ではない。勝てなければ意味がない」

(藤沢秀行名人の孫・藤沢里菜・史上最年少の十一歳六ヶ月でプロ棋士になって)

○「審査ばかり追いかけている人には耳が痛いんでは？」

○「テニスは、心・技・体、全てが結びつかないと勝てない。引退までの十七年間は、戦いと言うよりは挑戦だった」

(プロテニス・杉山 愛選手)  
○「最後には力を振り絞ったが、届かなかった。人間的な未熟さが出てしまった」

(山崎勇喜選手・五十km競歩の日本選手権六連覇達成はしたが、自己の日本記録には十二秒及ばず)

○「剣道は自分を高めて呉れるもの。もう一度初心に戻り、経験を積みたい」  
大学時代の恩師(森島師範)には、「誰にでも出来る事を、誰も出来ない位やれ」と教えられた。

(内村良一選手・三年振り剣道日本)

一になって)

○「目標の為に、今を頑張るしかない。目の前の目標を一つ、一つクリアしていききたい」

(スピードスケート・小平奈緒選手)  
○「目標があるのは、気持ちの上で絶対に違う」

(楽天イーグルス・岩隈久志投手・WBC日本代表を目指して)

○「挨拶、周りへの気配り、身嗜み等トップ選手としての心の持ち方を重視して、心のバレーを目標に練習してきました」

(東レ・菅野監督・バレーボールプレミアリーグで優勝)

○「最後のバットは、自分が、わからなくなる程緊張した。それも自分に自信がなかったからだ。そうならないうちに練習しないといけないと言っていることを学んだことが今年に繋がっている。

(プロゴルフファー・有村知恵選手)  
○「私は、やるべきことはやった。あと足りないのは自信だけ」

(プロゴルフファー・宮里 藍選手・米ツアード予選落ちして)  
○「スコアは支配できないが、気持ちは支配出来る」

(ソレンスタム選手のコーチ・ニールソン)

○「この状況を乗り越えるのは簡単ではないかもしれないが、苦労した分だけその後の喜びも大きくなる。自分、更に良い選手になるためのステップアップと捉えている」

(レッドソックス・松坂大輔投手・二度目の故障者リスト入りして)

○「この失敗を生かさなければ、単なる失敗に終わってしまう。」

(大八木 駒沢大学監督・第八十七回箱根駅伝で四連覇を逃し、シード権も失って)(第八十八回大会では復路優勝、総合二位)

○「この口惜しさがあるから、頑張れる」

(プロゴルフファー・石川 遼選手・マスターズ予選落ちして)  
○最後に、「心こそ、心感わす心なれ、心に心、心許すな」

(江戸時代・大徳寺住職・沢庵和尚)

塚幕の寄贈

このたび、小諸支部の田村 脩先生から、県営飯田弓道場近的射場に塚幕を寄贈していただきました。厚く御礼申し上げます。

長野県弓道連盟 会長 山川 茂樹

(囲碁・藤沢秀行名人)





# 信大弓道部 矢野君 全日本遠的選手権・二年連続の栄冠

このたび、明治神宮で行われた全国弓道遠的大会一般の部で優勝しました矢野雄也と申します。

まさか二年連続で優勝できるとは、全く思っていませんでした。今回の大会は、前回の四射三中のような悔いの残る中ではなかったのが良かったです。

しかも、決勝射詰めには最後の二人まで同じ信州大学の同学年同士で残ることができ、とてもうれしく楽しく試合に臨むことができました。

今年も正月も休まずずっと練習に取り

り組んできました。この大会は、その練習の成果が出たと思つて、これからもし

つかり

練習し

てさら

なる結

果が残

せるよ

う取り

組んで

いきた

いです。



全日本遠的選手権二連覇の雄姿



# 憧れの三十三間堂遠的大会に参戦 長野県看護大学弓道部

長野県看護大学弓道部では、昨年引き続き新成人四名が京都三十三間堂遠的全国大会に参加してきましたので、感想を寄せ書きにしてお届けします。

『三十三間堂遠的大会に参加できてとてもよい経験ができました。大会に出ようと練習したり、実際に大会の舞台にも立ったことで、これからは弓道を続けていきたいと思うようになりま

## 長野県看護大学弓道部

した。大会に四人全員出場できたのは、ご指導くださった先生方のおかげだと思つております。本当にありがとうございます。 (部長・森脇 綾香)

『弓歴五年目にして憧れの大舞台に立つことができ、とても感慨深かったです。思えば高校時代に部活仲間とこの大会のことを語り合ったこともありましたが、経験したこともない規模の大会なので想像もつきませんでした。

そのような夢の舞台で弓を引けたことは一生の思い出になったので、孫の代まで自慢しようと思えます。』

(吉岡菜奈美)

『二十歳の思い出に三十三間堂で弓を引きたい』という強い思いに駆られて出場資格の初段を得るために半年間駒ヶ根弓道場に通いました。念願が叶いこんなに嬉しい事はありません。よい思い出になりました。』(原田 知恵)

『参加者が多く待ち時間も長かったのですが、引く時間はあつという間でした。それでも自分の力を出し、的を射ることができました。的中できたこと、参加できたことで、生涯忘れられない思い出ができました。』

(宮澤 彩水)



“馬子にも衣装”? 大会場前にて

# 大会結果

## ◆第10回全日本弓道遠的大会

○全弓連主催・1月22日(中央道場)

★新成人女子の部

4位 西川依里 信大(参段)

5位 佐野祥子 信大(初段)

★新成人男子の部

2位 安藤唯幸 信大(弐段)

★一般男子の部

1位 矢野雄也 信大(四段) 初優勝

2位 内山貴之 信大(参段)

4位 志村 仁 諏訪支部(五段)

## ◆志峰館弓友会百射会

○1月30日(志峰館弓道場 12名)

1位 笹岡達也(駒ヶ根) 89中

2位 水田明美(駒ヶ根) 68中

3位 前澤秀夫(駒ヶ根) 67中

## ◆東伊那弓道会百射会

○2月7日(東伊那弓道場 10名)

1位 水田明美(駒ヶ根) 65中

2位 前澤秀夫(駒ヶ根) 64中

3位 森田慶一(東伊那) 58中

## ◆第28回飯島町弓友会百射会

○2月11日(飯島町弓道場 31名)

1位 亀岡英司(南佐久) 88中

2位 笹岡達也(駒ヶ根) 83中



駒ヶ根百射会の一コマ

◆第18回中野冬季百射会

○2月14日(中野市菅弓道場 64名)

- 1位 中村 宏 (諏訪支部) 96中
- 2位 大島勝巳 (新潟県魚沼) 78中
- 3位 郷道隆志 (中野支部) 71中
- 4位 浅田順道 (新潟県小千谷) 70中
- 5位 小山謙太郎 (須坂支部) 69中

- 3位 湯澤幸司 (東伊那) 78中
- 4位 山田静香 (伊那) 76中
- 5位 柴 種徳 (伊那) 73中
- 6位 飛鳥川俊郎 (駒ヶ根) 73中
- 7位 島本昌晃 (駒ヶ根) 68中
- 8位 水田明美 (駒ヶ根) 65中
- 9位 原 深雪 (諏訪) 63中
- 10位 前澤秀夫 (駒ヶ根) 63中

◆第18回駒ヶ根市体協弓道会百射会

○2月21日(駒ヶ根弓道場 28名)

- 1位 笹岡達也 (駒ヶ根) 81中
- 2位 小澤剛志 (駒ヶ根) 81中
- 3位 細田将弘 (駒ヶ根) 79中
- 4位 水田明美 (駒ヶ根) 73中
- 5位 前澤秀夫 (駒ヶ根) 68中
- 6位 春日 貴 (駒ヶ根) 67中
- 7位 松枝敏広 (豊丘) 67中
- 8位 高仲成人 (駒ヶ根) 61中
- 9位 平澤孝一 (伊那) 57中
- 10位 都筑 勝 (駒ヶ根) 54中

審査合格者

平成二十一年度特別臨時審査 (東京 12月20日)

- ▽錬士 篠 澤 英 次 (佐久支部)
  - ▽錬士 松 枝 敏 広 (飯伊支部)
  - ▽錬士 伊 藤 公 二 (塩尻支部)
  - ▽錬士 上 條 寛 (松本支部)
- 教士号取得特別講習会修了者 (22年2月21日)
- ▽教士 田 村 脩 (小諸支部)
  - ▽教士 小 林 義 一 (長野支部)

お悔やみ申し上げます (敬称略)

五段 白田 和 足 (77歳)  
下伊那郡松川町上片桐 12月13日ご逝去

五段 上 條 凱 (67歳)  
上田市中央西一―五―四一 1月19日ご逝去

「つやみ」

「政治とカネ」の問題がメディアで大きく取り上げられてから強い関心を寄せてきたが、現状ではさして納得のできる結果を見ぬままに無駄な時間を費やした感がある。何時の間にか報道は「冬季五輪」一色に塗り替えられ、確定申告を前に割り切れぬ思いで日本選手活躍に一喜一憂した人も少なくないだろう。

五輪と言えば、ハーフパイプの日本選手の服装や言動がさまざまな論議を呼んだ。「種目の性格上、已むなし」との見方もあるようだ。私には到底、受け入れ難い。彼らの養成と大会派遣には多額の税金が投入される。それ故、選考された選手は日本の代表としての品位を保ち、国民の期待に応える義務を負う。個人的な趣味や遊び感覚での大会参加は認め難い。公式会見場での質問に舌打ちしながら応答する態度、入国時の服装や姿、まさに顰蹙ものであり、同胞として嘆かわしく思えた。

『スポーツマンシップ』とは、礼節を重んじ、対戦相手と正々堂々と勝負を競う態度であり、その為には厳しく自己を律し、清廉な精神を養うことが肝要であると、改めて自戒したことであった。

(征矢 憲)

# 弓道合宿予約随時受付中！

## 野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立 1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立 2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

〒384-1305  
 長野県南佐久郡南牧村野辺山1003  
 HP : <http://www.teisanlodge.com/>  
 ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861